

## 富山県美術館開館記念

### イベント「パン人間@TAD」参加募集!!

折元立身さんと一緒に「パン人間」になり、富山県美術館内外を歩き回ります。「パン人間」パフォーマンスを体験してみませんか。

[実施日] 8月26日(土)

[時間] 未定 \*詳細は、返信はがきとwebにてお知らせします。

[定員] 30名 [対象] 高校生以上 [参加費] 無料

[申込締切] 8月8日消印有効

[申込] 往復はがきにて抽選

往信面に①お名前(ふりがな)②住所③電話番号④年齢を記載してお送りください。ご兄弟・姉妹以外は1人1通でお申し込みください。

[宛先] 〒930-0806 富山市木場町3-20 富山県美術館 普及課「パン人間」係

### パン人間とは

1970年代頃に渡米した折元は、フルクサスのメンバーであったナム・ジュン・パイクのアシスタントを務めたこともあり、作品として、かたちの残らない「行為/ハプニング」という表現様式に興味を持つようになりました。帰国後、折元は1991年にギャラリーで最初のパフォーマンス「パン人間」を行います。パンは、キリスト教文化圏で、主イエスの身体象徴であり、食べ物との代名詞とされます。また、日本でパンの頭といえば、アンパンマンを連想させるなど、世界中どこにでもあり、誰にでも身近なその存在は、見た人の生活水準、宗教観、文化環境によって、多様な解釈ができるものだと思います。「パン人間」のパフォーマンスは、ギャラリーで佇んだり、街を徘徊したり、一見ナンセンスに見えますが、生命維持に必要な不可欠な「食物=パン」自体になりきる姿が、見るものに様々な問いを投げかけてくれるでしょう。

そして、本企画では関連イベント「パン人間@TAD」を、富山県美術館が全面開館するその日に行います。メモリアルな会場で起こる「ハプニング」は、作家自身のみならず、イベント参加者も仮面の様にパンで顔を覆う「パン人間」となり、作品を目撃する側から目撃される側に意識を反転させます。演じる人、見る人の日常を変えることができる折元独自のアイデアやパフォーマンスの世界観は、誰しもアーティストにしてしまう大らかさや可能性を大いに含んでいるといえるでしょう。

### アクセス

○JR富山駅新幹線 改札口(富山駅南口)から

徒歩:約20分/タクシー:約10分/バス:7番のりばより乗車、「富山県美術館」下車すぐ

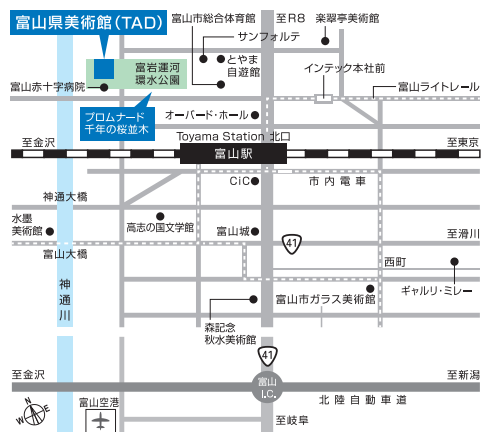
○あいの風とやま鉄道 改札口(富山駅北口)から

徒歩:約15分/タクシー:約3分/バス:1番のりばより乗車、「富山県美術館」下車すぐ

○富山空港より タクシー:車:約20分(渋滞なし)※約9 km

○北陸自動車道より 富山I.C.から国道41号経由 約15分(渋滞なし)

\*美術館内の駐車場をご利用ください。



# TATSUMI ORIMOTO

8.26 TADでパン人間を 目撃せよ



富山県美術館開館記念

アーティスト@TAD Reality of LIFE — 折元 立身

[会期] 2017年8月26日(土)~9月18日(月・祝) 9:30~18:00(入館は17:30まで)

[場所] 富山県美術館1階TADギャラリー [休館日] 水曜日 ※8月30日は臨時開館

[公開制作] 8月23日(水)~25日(金) 15:00~16:00 ※8月23日は、晴天時のみ屋上で制作します。

[公開制作場所] 富山県美術館3階アトリエ、オノマトペの屋上(晴天時のみ)

# 「Reality of LIFE — 折元 立身」

## 開催にあたって

第1回となるアーティスト@TADでは、コンテンポラリー・アーティストの折元立身を紹介します。

折元は、これまで、ヴェネチア・ビエンナーレや横浜トリエンナーレなど大規模な国際展に参加し、国内外問わず先駆的な美術活動を続けてきました。生きることのリアリティが作品と深く結びついた制作スタイルは、見るものの心を捉えて離しません。

本展覧会で紹介する折元の「アート・ママ」シリーズは、1993年頃からアルツハイマー症を患った母親である「男代」との長年にわたる息子介護の日常そのものを、ユーモラスに描きだした作品群です。ある時は、母に手作りの大きな靴を履かせ、またある時は、タイヤチューブを母の首にさげ、日々の記録を写真に収めてきました。介護生活でさえもアートに昇華させる折元の制作スタイルからは、生活の中に溢れる遊び心が、温かく伝わってきます。また、母「男代」は、作品の被写体になることも含めて、常に息子「立身」に寄り添う一番の理解者でもありました。生活と制作が、母と息子が、ぴったりと寄り添い生まれた折元の作品からは、生きることの実感が、作家のまなざしを通して伝わってきます。心に深く問いかけてくる折元の作品から、いつも寄り添う存在に、改めて気持ちを傾けるきっかけになれば幸いです。



▲②

### 折元立身 Tatsumi Orimoto

- 1946年 神奈川県川崎市生まれ
- 1969年 カリフォルニアに渡米する。カリフォルニア インスティテュート オブ アートに学ぶ (-1971)
- 1971年 ニューヨークに移る。アート スチューデント リーグに学ぶ (-1975年)
- 1972年 同校にて、国吉康雄奨学金を受ける。ナム・ジュン・パイクのアシスタントを務める。フルクサスに参加
- 1977年 日本に帰国。現在、神奈川県川崎市在住

### 主な個展・グループ展・パフォーマンス作品

- 1991年 パフォーマンス「二人のパン人間」ギャラリーK (東京)
- 1998年 イベント写真展「アート・ママ」ギャラリー7/8バルムヘルツィヒカイト (ハンブルク)
- 2000年 「アート・ママ」原美術館 (東京)
- 2001年 ベネチアビエンナーレ アペルト「Plateau of Humankind」(ヴェネチア)
- 2001年 「横浜トリエンナーレ 2001 メガ・ウェイブ—新たな総合に向けて—」(神奈川)
- 2009年 グループ展「BELIEVE 日本の現代美術」富山県立近代美術館 (富山)
- 2016年 「生きるアート 折元立身」展 川崎市市民ミュージアム (神奈川) 等

## アーティスト@TADとは

富山県美術館の1階 TAD ギャラリーに、国内外で活躍するアーティストを招き、アトリエ等で制作した作品の展示を行います。滞在制作中には、ワークショップやパフォーマンスなどを行い、「みる」×「つくる」×「発表する」ことにより、アートを体感する富山県美術館 (TAD) の新企画です。

### 同時開催 富山県美術館開館記念展Part1 生命と美の物語 LIFE—楽園をもとめて

本展は、アートの根源的なテーマである「LIFE ライフ」を『「すばらしい世界 = 楽園」をもとめる旅』ととらえ、「子ども」、「愛」、「日常」、「感情」、「夢」、「死」、「プリミティブ」、「自然」の8つの章により構成し、国内外の美術館コレクションの優品を中心とした約170点をご紹介します。この富山県美術館でしか体験できない、新たなアートの出会いを創出します。折元立身作品は、第2章「愛」のコーナーに出品されます。

【期間】8月26日(土)～11月5日(日) 前期:8月26日(土)～10月3日(火) 後期:10月5日(木)～11月5日(日)  
 【観覧料】一般1,300円(1,000円) 大学生950円(750円) 一般前売り1,000円  
 ( )内は20名以上の団体料金

- ①アート・ママ《2008年9月28日》より(2008)
- ②プルーゲルのバス・ルーム・ミュージアム(2015)
- ③スモール・ママ+ビッグ・シューズ(1997)
- ④モーツァルト・ママ ディナー(2013)
- ⑤アート・ママ+息子と大きいパン(2012)
- ⑥カレンダー・ママ(2011)
- ⑦タイヤチューブ・コミュニケーション(1996)
- ⑧ボッシュのトイレット・ミュージアム(2015)
- ⑨パン人間の息子+アルツハイマー・ママ(1996)
- ⑩「パン人間」パフォーマンス@デンマーク(2016)
- ⑪「パン人間」パフォーマンス@マーゲイト(2015)

